

令和元年 8月30日

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原医療秘書福祉保育専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原医療秘書福祉保育専門学校 学校関係者評価委員会は、平成30年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下のとおり報告致します。

1. 実施日

令和元年8月21日（水）

2. 学校関係者評価委員

須藤 勉 氏 （東京都私立中学高等学校 東京私学教育研究所 所長）
中村 榮太郎 氏 （西神田町会 会長）
梅澤 稔 氏 （社会福祉法人 千代田区社会福祉協議会 地域協働課 課長）
藤田 美樹 氏 （株式会社こどもの森 まなびの森保育園白河 園長）
薄井 正和 氏 （社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームゆたか苑 園長）
金井 彩美 氏 （社会福祉法人 妙泉会 貫井保育園）
木田 勲 氏 （社会福祉法人カメラア会 墨田区なりひら高齢者みまもり相談室 相談室長）

(事務局)

村田 美保 （本校副校長）
山本 浩之 （本校教務部長）

【自己評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
1	教育理念・ 目的・ 育成人材像	1	理念・目的・ 育成人材像	80%	<p>当学園の教育理念は、学生に対して資格取得教育、実務教育を施し、人格の陶冶を行いもって有為な産業人を育成することである。</p> <p>また、校訓を「感奮興起」と定め、この意味するところの「感動は感謝を育み、奮闘は成功の一步となる。興味は才能を開花させ起動で人は自立する。」が具体的な教育理念となっている。教員に対しては「一人ひとりに光を」を教育の目標に掲げ、学生一人ひとりの目標と個性を活かした将来を描けるよう指導にあたっている。</p> <p>この教育理念を実現するために、主に高校卒業生を入学対象としている専門課程と、大学生・社会人を入学対象とした社会人講座を二本柱にしながら、資格取得教育のみならず実務に対応できる人材の育成を行っている。</p> <p>これらの教育理念・目的・育成人材像は、書籍や小冊子として全教職員に配付され周知徹底されている。その理念・目的の下で、教職員が質の高い教育を実践し、目指す人材を育成している。</p> <p>また、理念や目的、また育成する人材像は入学案内パンフレット、WEBを通じて公表している。</p>	適正に運営されている。
2	学校運営	2	運営方針	定めて いる	<p>学園全体の運営方針は理事会・評議員会で、また各校の運営方針は校長を中心とした運営会議で定められている。それらに基づいて管理者と詳細を決定し、その内容は全体朝礼で告知するとともに各課で周知徹底している。</p> <p>教育現場への浸透度合いを確認し、より高めることが今後の課題である。</p>	適正に運営されている。
		3	事業計画	定めて いる	<p>学校の運営方針を反映した事業計画（目標達成プログラム）は毎年度作成されており、各部署では目標を達成すべく定期的に進捗と差異を確認して必要な手立てを講じている。</p> <p>教職員全体での共有化を更に推し進めることで、目標達成をより確実なものにしていく必要がある。</p>	適正に運営されている。
		4	運営組織	90%	<p>理事会・評議員会で決議された内容は、本部長・事業部長・校長の下で開催される運営会議で伝達・説明され、部長・課長などの各階層でも適切な意思決定が行われている。また、意思決定が効率的に行えるように、職務分掌と責任に関する規定と各部門・各部署の役割を明示した運営組織図がある。</p>	適正に運営されている。
		5	人事・ 給与制度	80%	<p>要員計画、採用計画、教職員研修計画を通じて、人材の着実な確保と育成が行われている。また、人事・給与に関する規定も整備されていて、人事部および人事委員会を中心に適切に運用されている。</p>	適正に運営されている。
		6	意思決定 システム	90%	<p>理事会、評議員会、学園本部、学校と階層ごとに意思決定システムが確立されており、意思決定者による決定内容はイントラネットやグループウェアなどを用いて速やかに伝達されている。</p>	適正に運営されている。
		7	情報 システム	60%	<p>学校における管理システムの多くはすでに導入されており、現場の業務軽減に役立っている。</p> <p>養成校としての保管書類作成と連動するシステム作りに着手しており、その連動が課題となっている。</p>	適正に運営されている。
		8	目標の設定	設定し ている	<p>毎年、教育課程を編成するに当たり、教育課程編成委員会の提言を教育課程に反映させることで、時代のニーズに合った教育を提供している。</p> <p>また、各コースの教育目標、育成人材像は、分かりやすい言葉で、できるだけ具体的に示している。</p>	適正に運営されている。
9	教育方法・ 評価等	70%	<p>教育課程は、体系的にステップアップできるものになっている。</p> <p>定期的な見直しに当たっては、卒業生、関連企業等の協力による検討会によっている。</p> <p>また、学生との定期的な面接により学生からの意見を聞き、講義方法の改善をおこなっている。</p>	適正に運営されている。		

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
3	教育活動	10	成績評価・ 単位認定等	80%	成績評価・単位認定は客観的な方法で常に明確に行っている。また、実習については、各分野の現場担当者にご協力頂き、実際の各分野に合った人材であるかの評価もご協力を頂いている。シラバス等による成績評価基準の公開準備を進めていく。	適正に運営されている。
		11	資格・免許の 取得の指導 体制	80%	資格取得の体制については一定の水準は維持できている。保護者への教育方針の理解を高めること、また、実務家教員の動員を進めることで、より教育の質向上を図る。	教育課程編成委員会の委員の方に積極的に特別講義を依頼し、実施してはどうか。 《提言に対する応対方法》 今後、委員の方に個別でお声がけし、業界の現状などを講話いただくように進める。
		12	教員・ 教員組織	70%	教員の確保については、常勤講師・非常勤講師を問わず、採用・育成・評価の各段階において、目的達成のための体制がほぼ出来上がっている。一部、不十分な点を残すが今後の課題としたい。	適正に運営されている。
4	学修成果	13	就職率	90%	就職希望学生への就職指導においては、担任及び担任以外の教員が個別面談を進め、学生個人の適性及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践している。学生本人の希望する就職が概ね達成できている。また、それらの達成状況（就職率）は学園本部で管理されている。	適正に運営されている。
		14	資格・免許の 取得率	80%	教育課程を編成する中で、学生が就職を志望する業界、業種で役立つ資格取得を目指している。大半の学生が合格出来るよう教材作成、カリキュラムや指導方法の研究も行っている。	適正に運営されている。
		15	卒業生の 社会的評価	70%	今後は、実習先でない就職先に就職した卒業生に対し、入社後状況調査を実施し、教育カリキュラムにも反映していきたい。当校の卒業生は基本的な社会人マナーについて高い評価を頂いている。（挨拶、返事、基本的行動等）ただし、文書力、課題解決力が不足している点を複数の就職先から指摘頂いているため、今後の教育課程編成における課題として取り組んでいく。	適正に運営されている。
		16	就職等進路	70%	就職は教育の大きな目的であり、そのための支援体制は整備されている。就職内定獲得に必要な指導内容は2年間（又は1年間）カリキュラムの一環として組み込まれ、早期の内定獲得を実現している。近年は、求職者支援事業として委託訓練生も受け入れを行っており、年齢層の高い在校生もいるが、就職に対するニーズをキャリアコンサルティングを通して早期に把握し、希望に沿う就職指導ができている。	適正に運営されている。

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	17	中途退学への 対応	50%	<p>退学率の低減は入学者の確保と同様、事業計画における最重要課題の1つとして取り組んでいる。学生が退学を希望するきっかけとなる時期・理由は多様化しており、今後は学生指導勉強会の定期的な実施、外部研修会への積極的参加等、担当者の更なる能力向上に向けた取り組みが必要である。家庭との連携も欠かせない。</p>	<p>担任の指導が中心であると思うが、学生の立場に立ち、気持ちを共感できるのは卒業生だと考える。その為、卒業生と交流できる環境が必要だと思う。また、担任がすべての学生を管理しており、個別対応等で負担が増えているため、その軽減にも繋がるのではないかと。</p> <p>実習等で学生を受け入れているが、コミュニケーションの取れない学生、指導を受けることに慣れていない学生が近年増加しているように感じる。学生のタイプも多様化してきているため、学生個々にあった指導をして欲しい。</p> <p>《提言に対する対応方法》 在校生、卒業生の関わりは学生の学習意欲向上に繋がるため、カリキュラム等を検討し、交流会の仕組み作りを検討していく。</p> <p>学生タイプも多岐に渡り、学生指導も苦慮している。退学に至った事例等を使用しながら、様々なタイプを理解し、その学生にあった個別対応ができるように、継続して学生指導勉強会を実施し、退学率の低減に努めていく。</p>
		18	学生相談	60%	<p>学生相談については、学生のシグナルを担任が見逃さずにキャッチし、その都度対応している。また、節目ごとに全員と個別面接を行い、今後の進路、目標確認、悩みなどを聞きだし対応している。その結果を指導記録にまとめ、上司に報告も行うなどの細やかな指導を実践している。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
		19	学生生活	70%	<p>より多くの学生が就学できるように、経済面、環境面などについて支援体制を整備している。今後もニーズに応じてボランティア活動やサークル活動などを充実させる。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
		20	保護者との 連携	70%	<p>保護者への連絡については定期的に行っている。特に、規定の家庭宛注意文書が発送される前については確実に保護者への連絡を義務付けている。必要に応じて保護者に来校していただき、面接も行っている。しかし、業務時間内に連絡を取る事が難しかったり、理解を得られない保護者も年々増えているのが現状であり、担任の負担が増している。</p>	<p>適正に運営されている。</p>

【自己評価】0%（取り組めていない）～100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価

平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
5	学生支援	21	卒業生・ 社会人	60%	<p>卒業生への支援体制としては、担当教員を窓口にお問い合わせに応じて対応している。担当教員と上司や他の教員、関係部署間の連携により、可能な限りのフォローアップを行い、卒業生の満足も得られている。更なる満足度の向上を図るために卒業生サイトを運用し支援体制を整えている。</p> <p>また、大学卒業者や社会人などのニーズにこたえる制度の開発をさらに進めていく。</p>	<p>卒業後も実習等の訪問で、勤務している卒業生に声をかけてくれることは大変刺激になっており、卒業生の満足にも繋がっている。継続して続けて欲しい。</p> <p>卒業生サイトを活用し、卒業生の就職支援等の試みは良いが、相談が増えることにより、担当職員の負担に繋がる可能性が考えられるため、卒業生同士で支えあう仕組み作りが必要と思う。同窓会、交流会等を企画し、意見交換、アドバイス等が出来る環境を作ってはどうか。</p> <p>社会人のニーズに踏まえたカリキュラム構築、附帯教育等の取り組みは良いが、卒業生等に浸透していない様子が伺える。アピール方法を検討した方が良い。</p> <p>《提言に対する対応方法》 実習訪問時に卒業生に対し、継続して声かけてを行い、何かあれば、実習先にフィードバックをしていく。</p> <p>卒業生サイトを活用し、同窓会、交流会などの情報発信を行っていく。どのような形で発信し、運用をしていくか、また、卒業生に取って、就職支援方法等は卒業生等の意見を確認しながら、適宜検討をしていく。</p> <p>附帯教育にアピール方法は、卒業生用のオープンキャンパス等を企画し、検討をしていきたい。</p>
6	教育環境	22	施設・設備等	50%	<p>施設・設備に関しては、まだまだ十分に対応ではないと思われる。今後は、様々な施設を見学し、教育上取り入れるべき設備等を見極め、施設整備計画を立てて行くことが必要である。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
		23	学外実習、 インターン シップ等	90%	<p>実習や研修等の参加にあたっては、事前にガイダンスや説明会等を設け参加する目的・意義を確実に伝えている。また、実習・インターンシップ参加前はトラブルにならないよう校内において受入先を想定し、実習前トレーニングを行うとともに目的確認を行っている。</p> <p>研修については説明会を多く設定し事故やトラブルを防ぐように努めている。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
		24	防災・ 安全管理	60%	<p>保険等の加入については十分なものになっているが、それ以前の物的および人的な備えに関して、これから対応を施していかなければならない。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
7	学生の募集と受入れ	25	学生募集 活動	80%	<p>将来を意識した学生および保護者に対して、的確な情報を伝え、進路選択について過ちを起こさないようにさせたいと考える。また、高校側に対しても志願者について現状の認識と将来への展望を伝え、進路選択に役立ててもらいたいと考える。</p> <p>留学生については、就労ビザの関係で現段階では受け入れは行っていない。</p>	<p>適正に運営されている。</p>
		26	入学選考	80%	<p>学生一人ひとりに対して、書類選考を行っている。また、必要に応じて面接等を実施し、入学後進路変更がないように事前確認を十分行っているこの体制を維持していく。</p> <p>また、入学選考時に把握した情報は担任レベルまで落とし込んでいく体制作りを行う必要がある。</p>	<p>適正に運営されている。</p>

【自己評価】0%（取り組めていない）～ 100%（取り組みは十分で、成果も出ている）までの11段階評価						
平成30年度 学校関係者評価報告書		中項目		自己 評価	総括	学校関係者の評価・提言
No.	項目	No.	項目			
		27	学納金	適正に行っている	教育費に関しては、多くの家庭で優先順位が高い項目になっている。したがって、学費に関しては教育材料費等と常に確認をしながら負担にならない金額を設定するように心がけていく。また、学費納入に対しても滞ることがないように状況を確認していく。	適正に運営されている。
8	財務	28	財務基盤	安定している	学生募集については、学科、コースにより変動はあるが、学校全体としては好調であり、財務基盤は安定している。	適正に運営されている。
		29	予算・収支計画	策定している	当年度の重点計画、前年度実績予想との整合性を保ち、健全な予算編成をしている。また、執行については定期的に運営会議などで執行状況を確認している。	適正に運営されている。
		30	監査	実施している	学校法人監事による業務監査とともに内部および外部の会計監査を受け、法令または寄付行為への遵守と学園の財務の適正性を、確保するようにしている。	適正に運営されている。
		31	財務情報の公開	70%	学園全体の財務情報はWEBサイトで公開されているが、刊行物あるいは学内掲示での公開に関する規程がないため、規程の準備を今後進めていく。	適正に運営されている。
9	法令等の遵守	32	関係法令、設置基準等の遵守	90%	学園本部が中心となり、法令に対して速やかに対応できる体制を採っており、遵守に必要なものも文書化している。今後は教職員および学生に対して、定期的・継続的に実施できるよう検討を進める。	適正に運営されている。
		33	個人情報保護	80%	個人情報保護については情報セキュリティ委員会の下に、各部門・各校に管理者を配して、保護活動を徹底している。また、全国会議で説明会を催すなど、周知徹底を図るとともに対策の実効性を高めている。	適正に運営されている。
		34	学校評価	行っている	自己点検・評価報告書は申請があれば全項目を閲覧できる体制になっており、HPにも掲載している。外部者による学校関係者評価は行い、報告書はHPに掲載している。今後も継続的に評価を行い、課題を明確にして学校運営に活かしていく必要がある。	適正に運営されている。
		35	教育情報の公開	50%	学校の概要や教育内容はHP等に掲載しているが、教職員に関する情報はその対象となっていないので、情報公開の内容と方法について今後改善を進めていく。	適正に運営されている。
10	社会貢献・地域貢献	36	社会貢献・地域貢献	70%	従来より、附帯教育事業は積極的に行っており、今後も幅広い年齢層で様々な分野の教育サービスを提供していく。また、地域への貢献は施設の提供だけでなく学校の特色を活かしたものも提供したいと考えている。	適正に運営されている。
		37	ボランティア活動	90%	ボランティア活動は学生の希望者のみ学校所在地自治体や病院や保育園等のボランティアに参加している。また、活動報告書により個人別にボランティア時間を把握している。	適正に運営されている。

学校関係者委員会総括

自己評価結果については、適正であると評価できる。

大原医療秘書福祉保育専門学校の教育成果及び学生指導並びに学校運営の取り組みについて、検証を行った。自己評価結果は妥当であると評価できると判断できる。社会の変化に対応した教育を提供すること、実学教育・人格育成教育を提供すること、専門性が高く社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、現状に満足することなく、社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、常により良い教育が出来るようブラッシュアップを図ってほしい。また、教育の質を向上させるためには、卒業生との連携が必須となり、様々な部分で協力を仰ぐ必要がある。卒業生サイト等を活用しながら、様々な情報を発信し、まずは学校と卒業生との関係作りができるよう、徐々に取り組みを検討していきたい。